



森のなかま

2010年9月号

NO. 29 (継続174)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

<やどりき水源林のつどい>盛大に開催！！

担当理事 森本 正信



家族そろって丸太切り体験中で～す。

平成22年8月21日(土)、恒例の標記イベントが開催されましたので、概要を報告します。

主催：県民との協働による森林づくり実行委員会

(財)かながわトラストみどり財団・神奈川県・神奈川県森林組合連合会・神奈川県木材業協同組合連合会・神奈川県森林協会・神奈川県山林種苗協同組合・神奈川県林業協会・NPO法人かながわ森林インストラクターの会

共催：松田町

協賛：神奈川県内広域水道企業団

開催時期が従来の10月中旬から夏場に変更となったが、215名が参加。夏休み中の子供の割合が高かったようだ。午前中は水源林トレッキング(林道・自然観察コース)と水生生物観察コースで、やどりきの山滴る夏を満喫。

午後は、式典や森のコンサートのあと、交流会の新企画として、大ビンゴ大会を採用。県・全国植樹祭推進課と当実行委員会事務局のかながわトラストみどり財団より、景品を大量に拠出していただいた。なお、本会からはヒノキの杖を提供。景品数が多かったこともあり大いに盛り上がった。次回、パートナー先へ景品ご提供の声かけを拡げていきたい。



フレッシュな地場野菜を、どっさり！



結構なお手前です。野点コーナー



水源林トレッキング/水生生物観察



広場での新展開コーナーとして、地元の野菜・足柄茶販売や、緑の募金コーナーも新設。今年のつどいのコンセプトは、全員でおもてなしとした。総合司会に女性2名を充てる等、運営面などでだいぶ洗練されてきた感はある。後日、アンケート結果などでこの評価反省をしたい。来年度は、より多くの水源の森林づくりにご理解のある皆さまにお会いしたい。

写真：伊藤恭造氏/広報部 鈴木

広葉樹の苗木が光を受け、爽やかな風吹き渡る成長の森

～～ やどりき水源林内 『成長の森』 下刈り作業完了報告 ～～

森林部会部会長 浦野 稔

昨年に引き続き「成長の森」の下刈りを実施、予定期限内に完了しましたのでご報告いたします。

「成長の森」とは『♪ 赤ちゃんと、ともにはぐくむ森づくり ♪ 赤ちゃんが生まれたご家族を参加者とし、赤ちゃんの誕生を記念し、その健やかな成長と苗木の成長を重ね合わせ、いつまでも愛着を持って親しんでいただける「成長の森」をつくり、森林の様々な恵みを次の世代へ引き継いでいくこと』（神奈川県ホームページより）を目的として神奈川県が平成19年度からやどりき水源林内に開設した事業です。

平成19年度、20年度、21年度のそれぞれの「成長の森」があり、合計24区画、面積1,240平方メートル（1区画平均515平米）、植栽本数7,930本（1区画平均330本）となっています。

神奈川県による平成22年度水源林委託業務（成長の森 下刈り）として松田町森林組合から受注したのはこの全24区画が対象です。8月10日から8月24日までの7日間、参加者46名、延べ動員数93人という多数の当会会員により実施しました。昨年は7月の実施に対し今年は1ヶ月遅れの作業となったために草の勢いや暑さが最高潮の時期になったことから作業には大変厳しい状況でした。加えて蜂（主にホソアシナガバチ）の活動期であったために注意しつつも毎回数人刺される被害を受けました。私も含め後日病院で治療を受ける者もありましたが予想以上に攻撃的な蜂のようです。ポイズン・リムーバーの効果を実感できた人も多かったようです。



作業中で～す。21年度1番

「成長の森」巡回事業において、春先から初夏にかけての巡回時に日を追って生長する草、対して肝心の植栽された苗木は小さく、か弱く見え、そのうちに草に埋もれているという状況が毎週の報告に載るようになってやきもきしていたのは私だけではなかったと思います。ようやく今、苗木が光を受け、爽やかな風の吹き渡る中、成長の森見学者ともども成長を見守ることができるようになりました。事務局・やどりき部会・森林部会を代表してお礼申し上げます。会員の皆様へ参加を呼びかけ続け、うるさく感じた方も多かったかもしれませんが、成果と引き換えにご容赦をお願いします。



作業前 19年度13番



左の写真と同一場所・少し高い位置からの撮影

作業11日後の様子 19年度13番

新城小学校・ビオトープ作りについて

松崎 龍之介<5期>

先般、標記川崎市立新城小学校において、学校ビオトープについての講義を行いました。その内容をお話したいと思います。

本年2月、川崎市公園緑地協会を通じ川崎市立新城小学校より同校にビオトープを作る構想があるので生徒たちにビオトープについての講義をして欲しいとの依頼を受けた。3月10日に同校に出向き、小島校長、中越教頭と面談、同校のビオトープ構想の全体像および、生徒へどんな内容の講義をするかなど第1回目の打ち合わせを行った。

両先生の話では、ビオトープ構想の全体像はまだはっきりとしたものがあるのではなく、隣接している保育園が廃止になるので、その跡地にビオトープを作りたいとのこと。学校の希望としては、既にある循環式の池や小さな水田も活用し、新しく植物の教材園も作りたいとのこと。ビオトープの規模や設立費用、予算の裏づけなどはまだ未定。すべてこれからスタートとのことであった。

生徒への講義内容については、そもそもビオトープとは何か？ 自然や環境との関係など本質的で初歩的なことを教えて欲しいということで、1学年から6学年まで全員に、講義時間は各学年とも2時限90分でとのことだった。

その後、電話で何回か打ち合わせ、講義のスタートは6月に入ってからとのこと、講義の内容案を事前にまとめることなどを取り決めた。

当方では講義の内容案を作成、6月14日に提出した。提出案の内容は、「ビオトープとは、学校ビオトープとは、学校ビオトープの作り方、学校ビオトープの維持・管理の仕方、そして1、2年生用、3、4年生用、5、6年生用の講義のレジメ」などである。ボリュームはA4で12ページにわたるものとなった。

生徒への講義は6月21日を皮切りに、25日、28日、7月2日、5日、9日と、計6回実施した。各学年とも4クラスで約100名～120名をいっぺんにまとめた授業だった。小学生なので90分の講義など持つはずもないことがわかっていたので30分の講義45分の校庭観察(生き物探し)そして15分のまとめという構成にした。話すテーマは一緒でも学年によって理解力が違うので特に低学年への講義は工夫が必要で、こちらにとってもとても勉強になった授業であった。

7月9日、すべての授業を終え、中越教頭と面談、同校の今後のスケジュールを聞かせてもらった。夏休み以降、全教師で話し合い、学校ビオトープ作り前進の方向で臨むとのことだった。こちらにも「要請があり、時間が取ればこれからも協力する」旨伝えました。



新城小学校正門



校舎

活動短信

7/19～8/11

4～5年生体験学習（横浜市立釜利谷西小学校）

日 7月19日（日）10時半～11時半
場 足柄森林公園 丸太の森
参 116名（4年2クラス58名・5年2クラス58名
 大人14名）

財 永島、古舘、
イ L渡部⑦、渡辺③、増子③、出口④、横山⑤、
 野田⑧、飯澤⑨、海野⑩、酒井⑩、杉崎⑩、
 松山⑩、上宮田⑪、

7月に入って異常な猛暑が続く中、この日も例外でなく、普段は涼やかな南足柄の森も今までにない気温の高さになった。

予定より30分遅れで4・5年生 116名が汗だくで到着。丸太の森「ケヤキの広場」に集まり子供達の代表によるドキドキの挨拶から始まり、インストラクター12名の紹介を頂き、こちらもドキドキの時間がスタート致しました。

しかし、森の中に一歩足を踏み入れるや「先生！これ何？クモはいる？虫はいる？」駆け出しのインストラクターに否応のない質問を浴びせながら、その答えに大きな期待が集まりたちまち目が輝きだす。森に入ると 何だか良い気持ちになるから不思議よね～！？すると「何か良い空気が一杯あるよね！」と返事が返ってきた。いいぞ、いいぞ～ その何だか良い気持ちの感覚大切よね～！

花イカダ・ヤブラン・ヤブレガサの妙なコブ（虫こぶ）の不思議。椿の葉をじっくり観察するグループ、そしてその感動！！針葉樹と広葉樹の違い、森の中の水（雨）の役割など・・・。

この日のタイトル「森林の機能や動植物の生態」「森林と人とのかわり」などをしっかり学び飽くことのないあつと言う間の1時間、子供たちの目は既に未来への輝きで充ち満ちていた。

（記 11期 上宮田）

県立学校新採用教員研修（その一）

日 7月23日（金）9時～12時
場 愛川ふれあいの村
参 自然観察：43名、クラフト：45名
財 古舘、
イ L塩谷⑦、落合③、島岡③、渡辺③、高崎④、
 鈴木⑥、武川⑥、伊藤⑦、

4月から教壇に立った県立高校、養護学校の新任研修で、自然観察で6班、クラフトで2班をそれぞれが分担した。観察路に入り、森の生態系、構成する植物やキノコなど現物を見ながらその役割など説明しながら森の中を散策。先生らしく？全体的に良く聞いてその都度質問も出ていた。観察路を一周し、園内に戻りヤマビルのチェック、一人の足元から丸丸と太ったのがポトリと落ちた。塩水をかけるとドバツと一気に血を吐き出した為、しばらくヒル談議。落ち着いた所で木陰に入り、全体的な補足説明と質問や感想などを述べてもらった。

クラフト班は、落合さん、伊藤さんの指導で、園内で観察を兼ね「書けない鉛筆」の材料集めを行い、教室では一人2作品を楽しく作った。

（記 7期 塩谷）

県民参加の森林づくり

日 7月24日（土）晴れ 9時10分～13時半
場 南足柄市塚原（南足柄市県行造林）
参 71名
財 豊丸、永島、
イ **看** 青木
 L園田⑨、北村⑥、小野⑦、松田⑦、有坂⑧、
 松村俊⑧、石田順⑨、女川⑨、高橋⑨、村井⑨
 波多野⑨、**研** 川森⑪、岸⑪、徳岡⑪、松永⑪

連日の猛暑が続く激しい暑さの中、県民参加の森林づくり南足柄市塚原下刈が実施された。事前申し込み者79名に対しての参加者は71名で、暑さによる欠席者が多いのでは？と思われたが、県民の森林づくりへ意識の高さからか、出席率は良好だった。

当日は作業開始前に気温は既に30℃を超え、過酷な作業環境となる事が予想された。

そのため作業前のオリエンテーションでは、熱中症対策として①休憩、水分は十分に摂ること②無理せず自分のペースで作業すること③気分が悪くなったらインストラクターに速やかに伝えることを強調し、作業中は各インストラクターが、休憩及び水分摂取の声掛けをこまめに行い熱中症防止に努めた。

作業終了後の森林ミニ講座は“ちょっきりの国”で、参加者はチョッキリ（虫）の話しに熱心に聞き入っていた。斜度の急な一部の場所は刈りきれなかったが、事故や怪我、熱中症の発生も無く無事に作業は終了した。

（記 9期 波多野）

水生生物観察会&木工作り

日 7月24日（土）晴れ 10時～13時
場 やどりき水源林集會棟
参 日立電子サービス株式会社（日立電サさん）
 大人35名、子供30名
県 （自環保・水源の森推進課）金子、内田、
イ L山崎⑦、横山⑤、中島⑨、山下⑪、

朝から猛暑の中、やどりきゲート前で県の内田さんが待っておりました。有難うございます。東名で事故があったそうで心配しましたが、県の金子さんもクラフト担当の2名もすでに受付前で準備中でした。参加者は日立電サさんの社員とその家族。

1班・水生生物の観察 2班・木工トトロづくり
 活動開始直前に沢ガニが参上。子供たちが関心を高めておりました。リーダーの挨拶、注意事項で始まり、水生生物観察会と木工作り、2班で約1時間交代で行いました。水生生物も多く観察を行う事が出来大人も子供も大喜びでした。中でも“カジカガエル”が観察でき、子供さんから大きな声が響いていました。木工作りも何事もなく楽しく過ごせたと思います。暑い日でありましたが、両方の体験ができて良かったと思います。又、やどりき水源林の良さ、水源林の大切さを感じてくれたと思います。最後にその他で協力して頂いた方々ご苦労様でした。心から感謝します。

（記 5期 横山）

日揮パートナー林活動 水生生物の観察

日 7月24日(土) 晴れ 12時～15時
場 やどりき水源林
参 日揮株式会社 10名(内子供4名)
県 (自環保・水源の森推進課) 金子、内田、
イ 宮本④、

今回の水生生物採集・観察では去る6月13日、やどりき案内人班活動で行った調査活動結果の応用を試みた。即ち、林道コースを自然観察しながら成長の森入り口、寄沢・水棚沢合流点広場付近での採集・観察である。広場にて昼食後、寄沢・水棚沢合流点まで用具を携帯して、林道コースを自然観察しながら徒歩で移動した。

予想通り、多様な水生生物が多く採集され、子供たちやその父兄の方々にも楽しんでいただけたと思う。林道コースから山林に入る歩道の傾斜地はロープが張られ、安全性も確保されており、また、広場は景観もよく昼食にも適しているの、今後、林道自然観察⇔水生生物採集・観察コースを大いに活用していただきたいと思っている。(記 4期 宮本)

森林レクリエーションと飯ごう炊飯

日 7月28日(水) 晴れ
場 小田原市いこいの森
参 小田原市森林組合募集の親子 18名
 (子供12名・母親6名)
スタッフ 小田原市森林組合 佐藤他1名
イ L武者⑦、落合③、山崎⑦、渡部⑦、

小田原市森林組合が「いこいの森」で毎年実施しているプログラムの一つで、今回は自然観察、飯ごう炊飯、丸太切りの内容だった。計画では定員35名で募集したが、小田原市広報紙に掲載が間に合わなかったとかで、参加者が少なかった。当日は、参加者18名の親子を3班に分けて自然観察に出発したが、子どもの関心は専ら“虫取り”にあり、母親達の自然観察会の感がした。

昼食は自分達で飯ごうを使ってご飯を炊いた。殆どの参加者が初めての経験でありインストラクターも手伝ったが、様々なご飯が炊けて主催者が用意したカレーで賑やかに「カレーライス」をご飯が無くなるまでたいらげた。午後からは、コースを替えて自然観察をしながら「丸太切り」会場へ移動してヒノキの間伐材を使って、コースター作りに挑戦した。鋸も上手く使えるようになり、一人で4～5枚も切った子もいた。盛沢山の内容だったが午後3時に無事終了して、参加者全員が満足して「また、来たい」との感想を残して帰って行った。

(記 7期 渡部)

箱根・湯坂路のオオハンゴンソウ駆除

日 7月28日(水) 晴れ 10時～14時半
場 湯坂路入り口～鷹巣山稜線
参 箱根町ボランティアとして、小野⑦
 県・自然公園指導員として、村井⑨、

自然環境保全センター箱根出張所・辻本氏他10名

今年第1回目の外来植物“オオハンゴンソウ”の駆除が行われた。元々は園芸種として輸入されたものが、寒冷地を中心にはびこり太い根で日本古来の植物の生育を妨げている。花はクイモに似ていて綺麗だが、食用に適さない。午前1480株、午後1335株、駆除した。何回も同じ所で駆除することにより、太い根も小さくなって、やがては姿を消すことでしょう。(記 9期 村井)

県立学校新採用教員研修(その二)

日 7月30日(金) 9時～12時
場 愛川ふれあいの村
参 自然観察:32名、クラフト:43名
財 豊丸
イ L塩谷⑦、島岡③、渡辺③、高橋③、宮本④、高崎④、

当日は早朝から雷や雨で心配したが、スタート時には上がり自然観察は当初計画を一部変更して行なった。自然観察で4班、クラフトで2班を分担した。観察路は雨で滑りやすく、ヒルも多いので観察に集中出来ず、コースを途中まで歩いて森の雰囲気味わったところで、コースを外れ園内に戻った。園内で、それぞれの班毎に十分な時間を使い、ベンチに座って話をしたり、園内の樹木や草花を観察して廻り、参加者から質問や感想など述べて貰った事で、ある程度の共通認識を持つ事が出来たのではないと思う。クラフト班は、高橋さん、高崎さんの指導で「書けない鉛筆」を一人2作品作った。

*急遽予定変更があってもあわてずに対処出来る様、日頃からの準備が大切である。(記 7期 塩谷)

神奈川県法人会連合会「法人会の森」下刈り

日 7月31日(土) 8時45分～13時10分 曇り
場 秦野市寺山(ヤビツ峠) 法人会の森
参 法人会会員 約340名
県 (自環保・水源の森推進課) 内田 〇 青木
イ L佐藤⑤、森本⑤、横山⑤、鈴木⑤、山崎⑦、有坂⑧、久保⑧、斉藤⑧、佐藤⑧、内野⑨、村井⑨、後藤⑩、宮下⑩、一重⑪、大塚⑪、福島⑪、松永⑪、松本⑪、

11年目を迎えた「法人会の森」、恒例の下刈り作業が実施された。猛暑の続く昨日までに比べ当日は曇り空で熱中症の心配は若干和らいだ。ヤマビルの活動は旺盛で、主催者側が準備したガムテープをズボンの裾に巻いた対策では、小さなヒルが僅かな隙間に潜り込んでいるケースがかなり発見されたが、ヒル被害は意外と少なかった。大きな鎌は始めてという人は全体の1/4程度、手馴れた方が結構多くおよそ1時間で作業は無事故で完了。今回、主催者側が区割りロープを張るなど事前準備も入念にしてくれたものの、作業環境や場所の遠近などの違いで全員が戻るまでに若干時間差が大きくなったが、帰りのバスは予定時刻に

出発することが出来た。

大勢での作業だが参加の皆さん方にはそれぞれ達成感を得られたものと感じています。

(記 5期 佐藤)

森林づくり体験講座・やどりき溪畔林下刈り

日 7月31日(土) 晴れ 9時半～11時半
場 やどりき水源林
参 一般募集 20名(男性11名・女性9名)
財 高橋課長、鳥海、**看** 廣島
イ L浦野⑧、大道⑥、須長⑥、永野⑥、黒澤⑧、
 松村晴⑧、**研** 柴⑩、真貝⑩

やどりき大橋上流両岸に溪畔林を目指した面積合計0.18ha、H20年広葉樹植栽地の下刈り。寄沢を挟んで二手に分かれての作業となる。大橋利用で右岸に渡るが、帰途は希望者は寄沢を渡渉した。風もなくすぐに汗が吹き出る中だったが想定より若干早目の2時間弱で作業は完了。早めの昼食後に予定した林道コースを1時間、班別に案内する。沢沿いに吹き始めた風が心地良く参加者も楽しめたようです。残念ながら軽い熱中症1名、ハチ刺され1名、虫刺され2名、いずれも軽度でしたが今後の反省とします。(記 8期 浦野)

第7回 自然体験ツアー

“たたき網を持って、草むらで昆虫を探そう②”

日 7月31日(土) 10時～15時
場 県立21世紀の森
参 30名(大人13名、小学生15名、幼児2名)
AGS 布施(あっきーさん)、木津、
イ 金森⑩、

この夏2回開催の第2回目、夏休みに入り早朝から大渋滞、到着が遅れた参加者も午前中にはたたき網を無事完成させる。グリーンサービススタッフの入念な準備でスムーズに進行した。小刀を初めて使う子供が多かったが基本から教えたので貴重な体験になったようだ。午後は、たたき網(布)に落ちた小さな虫をレンズ付カップで観察する。前日雨だったせいか様々な昆虫が見られた。しかし、最もインパクトがあったのは、目の前に現れたマムシ、子供たちは危ないもの怖いものが大好き。怪我や熱中症もなく感想は上々。(記 10期 金森)

コカ・ユーラ『水源地域を訪ねる体験学習』

日 8月1日(日) 晴れ 10時～15時
場 宮が瀬湖畔・昆虫の森
参 一般公募の親子92名(大人42名・子供50名)
イ L相馬⑤、渡辺③、横山⑤、大澤⑩、一重⑩、
 リーダー提案による現場事前確認の為、インストラクター5名全員1時間前に宮が瀬湖畔着。

現場林内に入ったとたん、全員の顔にとまどいの色。“下草刈り・枝打ち”と銘打たれているのに、刈るべき下草は無い、打つべき枝も無い樹高10メートルほどの落葉広葉樹林。その後、リーダーが主催者側担当と打ち合わせ。100名の親子が3グループに分かれ、・自然観察 ・カヌー教室 ・森林保全の

三つのテーマを順番に体験するというもの。我々の担当する森林保全学習(下刈り・枝打ち)も各グループ1時間で納めて欲しいとのこと。

作業の意義・道具の使い方の説明をしつつ、導入路に茂るススキを刈り、数少ない枝を探しながら枝打ち体験をしてもらう。その程度でも、本日の“主賓”の小学生たちは満足の様子、ホッとする。

炎暑の中、一人の怪我も脱落もなく、皆、元気いっぱい一日の“体験”を楽しんでいた。

(記 10期 大澤)

「知ろう！神奈川の自然 アサヒビール

神奈川工場バスツアー」

日 7月25日(日)
場 県立21世紀の森
参 TV神奈川・アサヒビール企画招待者 80名
スタッフ テレビ神奈川取材班、神奈川新聞社担当
 アサヒビール担当者、2
 21世紀の森スタッフ、

イ L竹島③、森本⑤、山崎⑦、

恒例となった21世紀の森をフィールドにしたこの企画。今年前半の企画が7月25日に開催された。午前中の限られた時間ではあったが、アサヒビールの森の間伐材を利用した絵馬作りコンテスト、そして森林散策。水源の森の話、酒匂川の水の行方のお話を交えて3名のインストラクターが森を案内する。猛暑の中で林内の爽やかさを体感してもらう。ゴール地点に用意された21世紀の森の湧水で喉を潤す。午後からの楽しみもあって参加者の表情は明るい。(記 3期 竹島)

「森の下に何が見えますかPart14 下草刈り」

日 8月3日(火) 10時～12時
場 秦野市寺山 ヤビツの森
参 自治労神奈川県本部 36名
財 永島、**看** 青木
イ L小野⑦、村井⑨、海野⑩、小笠原⑩、松本⑩

下界での連日の猛暑から作業は大変だろうなと思っていましたが、761m超えのヤビツの森(まだ森にはなってはいませんが)は、曇りで更に谷からの風もあり、自治労の皆さんもたくさん汗をかいていましたが、心地良いと言っていました。いつもですとヤビツの森へは舗装道路からゲートを抜け森の下の広場にいきますが、この日は菩提峠方面へ向かうオフィシャルなハイキングルート(ヤビツ峠駐車場の目の前の小さな山)を通り広場に行きました。この時も下から心地よい谷風が吹いていました。作業場に向かう途中、各インストラクターが森や植物等のミニ観察会等を行ないました。今回参加された方は年齢も40歳代前後で様々な現場を知っている方が多く作業もスピーディーでしたが、作業時間が1時間と短くもっとやりたいといった表情の方が多く終了の合図をしても名残惜しそうにしていました。この日は坪刈りでしたが鎌は中鎌、大鎌の使用なので急斜面でもあり大変そうでしたまた、山ビル対策もガムテープ等でしっかりされていましたが、それでも血に飢えた蛭さんはわずかな靴の隙間から

入りこんでおいしい血(?)をいただいていた。これにも自治労の皆さん方は興味津々で蛭と駆除の仕方を熱心に観察されていました。大変にテキパキとしたバイタリティーのある方々でした。作業終了後自治労の皆さんはSPA(温泉)で汗を流して昼食、ミーティングというコース設定に向かわれました。(記 11期 松本)

県民参加の森林づくり

日 8月7日(土) 晴れ 9時40分～12時15分
場 山北町谷峨
参 18名
財 永島、豊丸、**看** 青木
イ L石田順⑨、井出①、佐藤①、友谷①、国分③、木元④、飯澤⑨、内野⑨、村井⑨、中田⑩、宮下⑩、**研** 福島⑪、湯浅⑪、吉田⑪、

参加募集定員100名のところ応募25名、そして当日は晴天にもかかわらず、18名だけの参加となった。応募数が少ないため、下見時に作業予定地を縮小してテープを張った4区画に、インストラクターも加わりながらの下刈りを行った。

周囲の草が大きく生い茂り、タラノキなどの有刺植物も多い中、一生懸命作業を行ってくれたおかげで、用意した4区画を終わらせ、周辺の草も刈った。

草丈が高かったため、大半は中鎌で作業をしてもらった。また、植林木(2年生のクヌギ、コナラ)の多くにはつるが巻きついており、手間のかかる作業だった。

木陰がなく、30℃を超える暑さの中がんばったこともあって、途中1名女性参加者に、軽い熱中症と見られる症状が出てしまった。しかし本人から、「少しめまいがする」と早めに報告してもらったことですぐに青木看護師のもと休憩をとってもらったため、無事回復された。

作業地を少し登った場所の尾根筋に木陰があり、一堂そこで昼食をとった。その後、世界と日本、神奈川県と山北町に関する森林のクイズを行ったが、皆よく参加してくれた。なお、作業地を提供された山北町森林組合からは、作業前に参加者に飲み物(足柄茶)も提供された。

今回は、バスで現地まで案内されるのではなく、運行本数の少ない御殿場線沿線ということで、参加者が少なかつたものと思われるが、駅から徒歩10分弱の場所で眺望もよく、事前の広報のしかたによっては、もう少し参加者が得られたのではないかと思われた。(記 9期 石田)

横浜トヨペット間伐体験

日 8月10日(火) 曇り 10時～12時半
場 やどりき水源林
参 横浜トヨペット労働組合 10名(大人8名・子供2名)
県 (自環保・水源の森推進課) 小司
イ L戸谷⑥、竹島③、

集合時間は10時でしたが、遅れてくる車が多く全員が集まったのは10時30分頃となる。

日本の森の現状や森林整備の方法と注意事項を説明し、参加者を2グループに分け、装備や身支度を整えて間伐体験場所の“そよ風の森”へ入った。

参加者は中堅社員と若手の方たちなので体力は十分。伐倒方向を決めてロープを張り、受け口を切り始めると闘争心がむき出しとなり、瞬く間に受け口が切り取られてしまった。

安全の再確認を兼ねて一息入れ、慎重に追い口を切り進めて予定通りの方向へ枝掛も無く伐倒。木が倒れた時の地響きで驚きの声と興奮の叫びが湧き上がりました。最後に、倒木の枝払いと玉切りを行って林内を整理をして間伐体験を終りました。子供たちは、当初、急斜面の登りと斜面での作業に腰が引けていましたが、枝払いを終えた時は斜面を制覇したかの如くのルンルン気分。皆さん怪我も無く無事に終える事が出来ました。

(記 6期 戸谷)



森林づくり体験講座C

日 8月11日(水) 曇り
場 山北町・大野山山頂、
参 高校生15名+教師1名
講師 (有)川又林業社員 前田裕司氏(11期)
財 鳥海、永島、**看** 小林
イ L伊藤⑦、国分③、有坂⑧、清水⑧、斉藤⑧、内野⑨、**研** 柴⑪、

台風4号の影響から、悪天候が心配されましたが、曇りという絶好の下刈り日和。

それでもリーダーからの挨拶は熱中症に重点が置かれたものになりました。

体操終了後、作業の実施。今回の高校生は生涯学習センターで環境活動に関わっていること、また仲間同士で話しあって下刈り作業に決めたこともあり、熱心な方ばかりでした。適宜休憩をはさみながら、作業は無事終了。

午後は、前田氏より神奈川県の森林と林業についての講義。チェーンソーに触ったり、写真を見ながらの講義内容に興味津々の様子。私達インストラクターにとっても有意義な内容でした。

(記 8期 斉藤)

やどりき水源林
ミニガイド

8月のトピックス



タマアジサイが水源林を彩ってます。

9月の水源林

色々な種の観察も楽しいですよ。
ネムの種です。

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土・日曜・午前10時・午後13時、1～2時間程度（冬季休止）

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(財) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

●ホームページ：: <http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約25分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩35分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

計報

11期 認定番号NO、343

柏木軍次様が8月19日午後4時12分、病の為ご逝去されました。

享年65歳 認定後9ヶ月、ご本人は志、半ばにしてさぞかし無念の事と思います。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。 —合掌—

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチ、活動報告なども募集しております。

送り先

<①電子配信希望>

森 義徳 〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784 Fax/<株リコー・森宛 045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈袋2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

原稿の締切は毎月20日です。

>編集後記<

★今年も千葉に所有する山にて5泊6日の集中整備を行った。雨に負けず、間伐と経路づくりは目標通り完了した。ここ2年で様々な動植物が戻ってきた、一方で、草むらの蜂の巣に気づかず刺されることはなかった。清々しい森に再生した。

(金森)

★終戦記念日、あの日の記憶と事実を鮮明に覚える。開戦、出征兵士、空襲、巨大爆弾（原爆）玉音放送。戦争、人間性を奪い尊厳は無視された。間違いの支え合は破滅に繋がる。開戦～戦後の歴史上最悪の10年を生きた大混乱は、忘れたくても。齢重ねての人生とは寂惜感慨、猛暑避けたし。

(鈴木松)

★「春」のつばやき「とある地域では、間伐材を小さく切り、防災用ホースを使って、山から木材を下ろします。その小さな材（未利用材や低質材）はペレットに加工して、暖房燃料に使います。この素敵な暖房が、広まるといいですね！」

★電子配信された会報、ご覧頂いてますか？パソコン画面で見づらいときは、お家プリントして、じっくり読んでくださいね。

(森)

★毎日の暑さのせいにして、やらなければいけないことは先送り、酒量及び煙の量は増えるばかり。早く涼しくなってくれることを祈るばかりです。

(鈴木朗)

★猛暑お見舞い申し上げます。

(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫（HP）、鈴木松弘、

原田智也 金森 巖 森本正信

上野潤二 森 義徳 鈴木朗

「春」

小田原*箱根木製品フェア 2010

第6回 全国 「木のクラフトコンペ」

日時/10/22～

10/24 10時～17時

会場/小田原アリーナ

小田原市中曽根263

同時開催：森林循環フェア 201

小田原・箱根の木製品をはじめとする木のイベントです。小田原・箱根の木製品を扱う木工店（50店舗予定）の販売など盛りだくさん。くわしくは事務局：0465-32-5253まで